

市民公開講座一足に潜む病気の予防&改善 県内医療機関の専門家がレクチャー

奈良



むくみ、だるさ、かゆみや痛みなどの症状を伴い、脚の血管が膨れてこぶのようになる「下肢静脈瘤」。また、災害時や旅行時に起こりやすい深部静脈血栓症(エコノミークラス症候群・旅行者血栓症)や、



↑市民公開講座風景

手術の後遺症のリンパ浮腫など、脚に潜む病気の予防と改善などについて、奈良県の静脈とリンパの病気を考える会(西の京病院 今井崇裕会長)が4月20日、奈良県文化会館で第9回市民公開講座「最近気になる! 脚に潜む病気くむくみを治し、いつまでも歩ける足を」を開いた。

当日は約350人が参加、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院など県内の7医療機関から血管の病気の治療に携わる医師、検査技師、看護師ら専門家が、その予防や検査・改善・治療法などの情報を提供した。血行促進・むくみ防止用の医療用弾性ストッキングの効用と症状別の選び方についても解説され、その製造開発を進める同講座協賛団体による製品展示コーナーも設けられた。

講座後、各講演テーマの担当医師別に質問ブースが設けられ、それぞれ悩み相談を受けた。奈良市から参加した婦人は、「脚に青筋が浮いて、むくみやすいので来ましたが、どの話もためになりました」と話した。



↑講座終了後の担当医師別相談コーナー



↑弾性ストッキング展示コーナー

DATA

問・0742-35-1276 (同会/医療法人康仁会 西の京病院内)